

いつも全力！



大切な宗像のために。

宗像市議会 建設産業常任委員会 委員長

あべ よし ひで
安部 芳英



▲ LINE@

〒811-4175 宗像市田久6丁目1番

Tel / Fax : 0940-32-1386

メール : abeyoshihide@gmail.com

ホームページ : http://abe-yoshihide.jp/

議員活動報告書
2019年10月号

1 今後の財政状況について



現状は施設の経営と維持管理を各部署で行っている。建物についての管理も部門が異なっている。一元化で進めたほうがより合理的であり、何よりも職員のノウハウの蓄積、情報の共有、事業の承継、人材育成などの効果も期待できる。維持部門の整理統合も必要では？

アセットマネジメント計画の見直しに取り組む中で、専門部署の設置について検討していく。



目利きの職員がコスト削減の調査や改善指導を行う、そういう責任部署があるのか？

そういった部署は今のところはない、組織の強化にあわせて検討していく必要がある。



他市では私有財産の有効活用ということで、民間事業者に広くアイデアの募集をしている事例がある、本市にもこういったことが必要では？

現状は庁内の公有財産等活用検討委員会で検討するような形だが、庁内だけではなく、民間からも広くいろんな意見はとる必要がある。



市民、民間事業所に公募を呼び掛けて進めて行ってほしい！



職員の提案制度がこれから必要では？ 前向きに検討していきたい。



2 産業振興について 『承継(しょうけい)』がキーワード



農業の承継の相談を密にしてほしい。

農業世帯に農地相談に関する情報をあらかじめ周知することによって、事前に考える準備ができ将来農地を相続することになった場合の選択肢も増え結果として後継者対策、耕作放棄地の対策につながるのでは？



後継者問題は非常に大きな問題 人・農地プランの見直しを図っていく中で



- 農業関係者からの意見 — 利用権設定での後継者の有無
- 農業委員会との連携 — 田んぼをどのように担っていくのか

農家の声を聞き支援 こういった制度がある 集積の話をする JAの事業として農地の維持管理や農作業の代行事業の紹介 などしていく



市職員の実家が農家であるとか、農業に興味がある職員など、農業をするための休暇取得や地域貢献の評価を付与するなど奨励を行うことができないか？

農業や水産業など、様々な地域の課題解決に対して職員が積極的に関わることは今後ますます重要になるため、有給休暇の取得など、庁内でもそうした活動を推奨してまいりたい。



市内商工業後継者対策とM&Aの支援を！！



宗像市の経済的な資源

少しでも活用できるように

市内事業所の

人材 土地 技術

社会的信用がある

事業の終活や中小企業間の提携、事業承継などM&Aの情報提供や相談など支援を行う準備は？

市民の生活 宗像市の経済



市内2,600以上の事業所

この経済基盤を維持し、成長発展させていくためには、事業承継と中小企業間の連携を市としても支援していくことは**必要不可欠**

福岡県事業承継支援ネットワークに参画

- このネットワークに属する専門家の紹介
- 事業承継に係る税制制度
- 補助金等の情報提供、相談対応

商工会と連携して実施していく

企業の新規事業展開等につながる

中小企業間の連携促進を市としても積極的に支援

業種や若手、ベテラン、創業者、老舗企業、そういった枠を超えた交流を促進できる場づくりを今年度から実施していく予定。ここで生まれる新しいビジネスによって、中小企業間、いわゆる事業者間の連携が図られ、さらにはその企業の成長にもつながるのではないかと考えている。

今、宗像市に土地、建物、技術等を所有している企業が、市内でどこかと同じ業種でM&Aで提携、支援することは、宗像市の経済にとっては、地盤を固める意味で有効であると考えますが、宗像市単独の支援策が無い状況である。

自治体事例① 島根県浜田市

事業承継の後継者として業種を指定して地域おこし協力隊を公募している。地域おこし協力隊は、国のお金を担保されながら、引き継ぎをしていくことで事業承継につながる。今年2月に日本初導入された。

自治体事例② 石川県七尾市

事業承継に対する相談、コンサルタント料を補助し、成功報酬も出している。最終的に宗像市の法人が減らない様にするために今後は進めてほしい。

当事者としての経験談だが事業の承継には5年から10年かかる。今の経営者の平均年齢は67~70歳となっている。早い段階から承継について情報提供をしておくべきである。



市

議になる前から毎年、宗像大社の氏子青年会に所属して、全国的にも有名なみあれ祭、神奈備祭等の奉仕をさせていただいております。令和初となったみあれ祭、陸上神幸も無事に終わり、宗像に秋が訪れました。

宗像の歴史文化の承継も重要な課題の一つです。



3 保健衛生について



本市の狂犬病の予防接種率は平成22年に72.8%だったが、平成28年には63%まで下降している。その要因を調べる必要がある。そもそも畜犬登録がどの程度信頼できるのかという疑問もあるのでデータの整理をしてほしい。また、公共施設内で犬の持ち込みを認めている場所に関しては出入り口でののぼり旗の啓発など創意工夫をしてほしい。



何らかの方法が無いのか、検討したい。



市内の食品衛生関係施設へのHACCP推進について。本市の食品衛生関係施設数は1,419件となっていますが、2021年にHACCP制度が完全義務化されるに当たり、どこの部署がどのように推進していく予定か？



2021年の完全義務化に向け、福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所においても、手続きに来た事業者に対して、取得に向けた支援を行っている。今年度、県主催によるHACCP認証申請に係るセミナーが開催される予定。本市においても、県や宗像・遠賀保健福祉環境事務所と連携しながら、セミナー開催、そのほか情報について把握次第、逐次、事業者へ広く周知、まずは産業振興部を初め関係課と連携しながら、取得に向けて推進してまいりたい。



本市に関係する団体、指定管理者にはできる限り早く認証手続をしてもらおうよう働きかけをしていただきたい。県合同庁舎の中には食品衛生協会等もある。連携を密にし、できる限り早く完全義務化に対応できるよう努力をしていただきたい。

災害ボランティア活動レポート（武雄市へ）

9月7日曇り時々雨のち晴れ



7:30 武雄市災害ボランティアセンターに到着し駐車場で災害ボランティアの猛者達から話を伺いました。「年金暮らし、今まで国にお世話になったから今度は恩返しをしたいと思って災害ボランティアを10年以上続けている」とおっしゃられていました。社会福祉協議会、行政関係者とも面識もできて、話もできてアドバイスも行っているとのこと。(70歳超え、こういった老後の形もあるのだとその姿勢に感服しました。)スーパーボランティアのあの方もまだ着替える前の状況でおられました。

8:30 列に並ぶ。既に70~80名は並んでいた。

9:00 受付開始

9:20頃 「本日の定員締め切りました」の看板が出される。

4人ずつになって住所氏名ボランティア経験などを記入、ボランティア保険加入の有無を確認。(ちょっとした創意工夫かもしれませんが、少しでもボランティアを待たせないように、ひいては被災者を待たせないように努力されていることが見て取れました。そして、くれぐれもボランティア保険はご自分のお住まいのボランティアセンターで事前に加入して向かいましょう！)

ボランティアマナー注意点について説明を受けて、被災家屋から出されているニーズとマッチングが行われます。床下泥かき、高圧洗浄機、家財道具の整理等等。

10:00 私もチーム編成され、最年長の方がリーダーに選出されました。岡山県真備町から恩返しにお越しになられた3人グループ、武雄出身者、北九州市民のご夫婦などなど8人のグループ構成です。



10:20 私は軽トラ提供を申し出てチーム全員で必要物品を荷台に乗せて現場へ向かいました。途中ボランティア対象家屋の住所がGoogleに出てこずに商店に入って場所を教えていただく。(反省)

10:30 現場到着、対象家屋が2つあることに現地で気がつく。リーダーの判断で、①倉庫の高圧洗浄 ②床下の泥撤去 の2班に分かれて作業開始。事前のリサーチおよび連絡に若干の行き違いがあり、被災家屋での作業内容の変更が発生、そのため必要となった作業物品が不足しているためボランティアセンターへ軽トラックで向かう。熊本地震の時にも経験済みで、よくあること。被災者は家屋復旧の経験もなく、大工経験もないので被害状況を聞き出しニーズを見極める関係職員の知見が作業に大きな影響を与えることになります。



ただし被災自治体関係者に完璧を求めるのは酷、精神的にも時間的にも余裕が無い中で対応している事を考えると、ボランティア作業中に発生する様々なことは私たちボランティアがルールの範囲内で臨機応変に対応します。(もしも宗像市で事前にやらなければならないとすれば地元のこと、建築のことがわかる人材や団体とあらかじめ体制を整え、訓練しておくことだと思います。)

12:00 休憩、昼食。当然ながら現地に日陰が無い場合が大半、トイレも無い事を承知の上でボランティアに参加した方が良いです。水害独特の臭気もあります。私は前夜にコンビニで買っておいたカレーパンをいただきました。我々のチームにはいませんでしたが受付場所に半袖シャツの軽装で参加している女性がおられました。(事前に必要事項を自分で調べて参加して下さいますようお願いします。)

13:00 午後の部、作業内容をチームで共有してスタート。この頃にはみんな打ち解け役割分担もはっきりできてくる。私は武雄市出身者の男性と災害ごみを井出ちゃんぽん本店先にある北方運動公園へ運搬、流石武雄市育ちだけあって地理に詳しく、スムーズに運搬できました。(こう言った地元出身者をチームに一人配置してもらえると効果的だと感じました。)

公園では応援の嬉野市の職員さんが対応してくれました。(あらかじめ多方面で市域を超えた連携がなされてきたからであると推察。)大型トラックの搬入時に離合が厳しいところもあるため、誘導員の配置をされていました。(宗像市でも災害ごみの仮置き場や搬入搬出経路を計画する場合はいくつかのパターンを計画しておいた方が良く感じました。)

14時過ぎ 被災者の軽トラック横を業者の大型トラックが通過する際に軽トラックのサイドミラーに接触してしまいました。幸い怪我などはありませんでしたが、大きな音がしたので被災者はもとよりご近所の方も不安な顔をされていました。(現場には災害ごみ運搬目的の車、被災していない住民の生活用の車、宅配便、郵便局のバイクなど常時と非常時が混在しているので、その事を念頭にボランティア中の事故には十分注意をする必要があると感じました。)

14:30 撤収、チームはセンターまで歩いて帰る。軽トラック担当の私は一足先にセンターに戻り追加で借りた物品も含めてセンターで数量チェックしてもらう。徒歩組と合流し、リーダーが作業完了報告をボランティア事務局に行って無事完了。

17:00頃 ボランティアチーム解散、それぞれの帰路に。高速道路料金無料の手続きは作業終了後に事前にプリントアウトし記入してきた書類をセンター本部に提出しスタンプを押してもらって、若宮インターの料金所で係員に確認してもらう事で完了です。

武雄市での活動が少しでも復旧復興に役立ち、本市の防災にも役に立つことができれば幸いです。また、もしも今後災害ボランティアに参加される方々の参考になれば幸いです。その時は事前に情報を収集して現地へ向かって下さい。また、災害ボランティアでなくとも観光ボランティア、伝達ボランティアなど手段は様々、一人一人に出来ることがあるはず。被災地の早期復旧復興を心から願います。

